



明日の建設業の イメージアップのために

(社) 島建協出雲支部青年部会長 久文秀典

今回の青年部創立10周年記念事業として開催した『夜回り先生 水谷修氏』の講演会は、当協会が一般市民の方々に向けて発信した初めてのイベントではありましたが、お陰様で1400人にもおよぶ方々にご来場を賜り、大好評、大成功の裡に幕を下ろすことができました。

ご協賛をいただきました出雲市、斐川町、ならびに諸団体におかれましては衷心より御礼を申し上げる次第であります。

さて、一般市民の皆様方から多くのご支持を賜りました今回の企画ですが、実は当部会におきましては、地場の建設業と業界団体の明日をかけて取り組んだ一大事業でもありました。

今をさかのぼること9カ月前、われわれは以下の観点から記念事業に係る議論を重ねておりました。

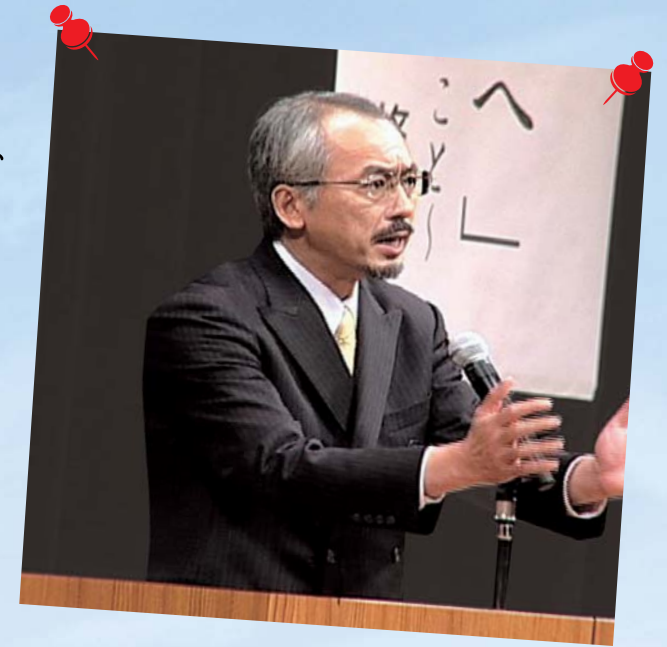
- 1 地域社会に貢献できるものであること。
- 2 地場の業界団体として、その存在意義を一般にアピールできる要素を含んでいること。
- 3 部会員のすべてがその事業に参加でき、自らの結束力と役割を再確認できるものであること。

その結果、たどり着いたのが市民参加型の講演会を開催し、何らかの方法で業界のイメージをアップさせ、地場建設業は地域とともにあり、地域にとって地場建設業はなくてはならない存在であることを広く一般にアピールし、自らもその存在意義を強く再認識しようとするこの試みであったのです。



ご来場者にお配りしたパンフレットの裏面には、「地域の次世代を担う青少年の健全育成は、地域社会のみならず、地場の業者の将来にとっても重要な課題である。」という大義を掲げ、「地元に住まいする社員と地元とに点在する現場を活かし、地域の青少年健全育成を見守っていく」としめくくる一方、協会が取り組む、さまざまな社会貢献活動を掲載させていただきました。

さらに、ご入場に至る長蛇の列の横には、昨年の降雨災害時の写真を貼ったパネルを配置し、災害発生時に危険をも顧みず作業する地場の業者の姿をアピールしました。



果たして、この取り組みがいかに業界のイメージアップにつながったのかは定かではありませんが、いままで自らの存在感を控え目にしか主張していなかった業界のあり方に一石を投じたことは間違いなかったことと思います。

常に謙虚であり続けることは大切なことではありますが、危険を顧みず災害応急に赴きながら、心無い人たちからは「どうせ金儲けにつながるんだろう」的発言をいつも聞かされたのでは、この地域を守り発展させていくという素晴らしい仕事への情熱も失いかねません。私たちは、私たちの大切な従業員のためにも、今後このようなPR活動を続けていかなければならないと考えます。

私たちが島根県建設業協会出雲支部は
地元住民の皆様方が、安全で安心に暮らせるための街づくりを行っている建設業者の団体ですが、一方で建設業を技術的、経済的及び社会的にも向上させ、公共の福祉を増進することを目的に活動している団体でもあります。

私たちが取り組んでいる活動

① **災害応急活動**
いざ災害発生という時には、昼夜を問わず自主的に出動し、市民の皆様方が危険にさらされないように、バリケード等で道路を封鎖したり、土のうを積んで、被災箇所が広がらないようにしたりといった災害応急活動を行っています。
(写真は昨年7月の豪雨災害時のもの)

② **社会奉仕活動**
国道や県道、公園等の清掃活動を毎年実施しています。特に「道は田舎の生命線」と銘打って始めた「国道まるごとクリーンアップ作戦」は今年で10回目となりました。
(年々、ゴミの量も少なくなり、道路使用者のモラル向上にも成果を上げているようです)

今回の講演会にあたって
島根県建設業協会出雲支部青年部会は、創立10周年記念事業として、「青少年の健全育成に資する事業」をテーマに、このたびの講演会を企画いたしました。しかし、その準備をしている最中にも、全国各地からは青少年に係る深刻な事件が毎日のように伝わってきます。我々はそれらにはいられません。地域と企業の将来を担う青少年の健全育成は重大な課題でもあり、気づいた者の務めとして「そうならない」「そうさせない」活動に取り組んでいく必要性を感じております。さらにその仕事場は昼夜を問わず元気のいたるところにあります。われわれ建設業協会出雲支部は114社 関連従業者3000名は今後も青少年の健全育成を積極的に見守って行きます。

社団法人 島根県建設業協会出雲支部 青年部会 創立10周年記念事業
水谷修氏講演会 平成19年11月13日(火) (出雲市民会館)

「未来ある子供たちへ」
「いざ、私たちが暮らす社会、守らなければならないこと。」

水谷修氏(夜回り先生)プロフィール
1956年、横浜に生まれる。幼少期を山形で過ごす。上智大学文学部哲学科卒業。横浜市にて、長く高校教員として勤務。12年を定時制高校で過ごす。教員生活のほとんどの時期、生徒指導を担当し、中・高校生による暴力・薬物・心臓の病に悩む生徒の更生と、非行防止、薬物汚染の防止の予防のための活動を精力的に行っている。また、若者たちから「夜回り」と呼ばれている。非行防止の「外」の活動を通して、多くの若者たちとふれあい、彼らの非行防止と更生に取り組んでいる。一方で、全国各地からのメールや電話による様々な子供たちからの相談に答え、子どもたちの不登校や心の病、自殺などの問題に関わっている。その現場での経験をもとに、専門誌や新聞、雑誌への執筆、テレビ、ラジオなどへの出演、日本各地での講演などを通して、子供たちが今直面している様々な問題について訴えている。

講演会ご参加のみならず、写真・ビデオでの撮影、録音はご遠慮願います。懇話会の場は入口付近で行っていただきます。

平成18年度施工 島根県優良建設工事知事表彰

部門	工事名	施工業者/代表者名
道路	出雲インター線 知井宮工区 新世紀道路改良工事	(株) ナカサン 代表取締役 中筋 彌行
河川	新内藤川 床上浸水対策特別緊急工事 第2工区	(株) 中筋組 代表取締役 中筋 豊通
	平田船川 広域基幹河川改修工事 樋門本体工	(株) 山本工務店 代表取締役 山本 恭則
都市計画	今市川跡線 第3工区 電線共同溝整備工事	大福工業(株) 代表取締役 福代 明正
農業土木	斐川南地区 ため池等整備事業 平廻ため池工事	ヒカワ工業(株) 代表取締役 福田 美樹
	朝山地区 ふるさと農道整備事業 道路工事	(株) 朝山技建 代表取締役 太田 正夫

河川	新内藤川 床上浸水対策特別緊急工事 第6工区	(株) 中筋組	平井 清
	新内藤川 床上浸水対策特別緊急工事 第7工区	(株) 広戸組	山根 英二
	神戸川 河川災害復旧工事 (18災7号)	(株) 三原組	三原 邦充
砂防	布勢川 通常砂防工事	(有) 米江組	宇野 斉
建築	大社高等学校屋内運動場 アスベスト対策工事	岩成工業(株)	藤江 敦雄
農業土木	求院地区 経営体育成基盤整備事業 舗装その6工事	ヒカワ工業(株)	松崎 俊一
	稗原地区 かんがい排水事業 第5ブロック用水管路その1工事	(有) 森山組	矢野 達雄
森林土木	真名井地区 林地荒廃防止工事	(株) 中筋組	高橋 立彦

平成18年度施工 優良建設工事表彰

◆ 所長表彰 ◆

(出雲県土整備事務所)

部門	工事名	施工業者	主任技術者
道路	出雲大社線 地方道路交付金(電線共同溝) 第2期工事	(株) ダイニ	吉野 誠士
	出雲平田線 新世紀道路第2期工事	山陰建設工業(株)	仙田 考生
	国道431号東林木バイパス 改築第3期工事	大福工業(株)	荒川 定男
	国道431号遙堪工区 特定交通安全第2期工事	(有) 金築組	金築 章
	国道184号乙立工区 災害防除工事	今岡工業(株)	清水 亮
	国道431号国富工区 県単舗装整備工事	山口建設(株)	山崎 裕司

平成18年度施工 優良建設工事表彰

◆ 主任技術者表彰 ◆

部門	工事名	施工業者	主任技術者
道路	出雲インター線 知井宮工区 新世紀道路改良工事	(株) ナカサン	田中 誠也
河川	新内藤川 床上浸水対策特別緊急工事 第2工区	(株) 中筋組	名原 勇司
	平田船川 広域基幹河川改修工事 樋門本体工	(株) 山本工務店	足立 哲伸
都市計画	今市川跡線 第3工区 電線共同溝整備工事	大福工業(株)	石橋 茂吉
農業土木	斐川南地区 ため池等整備事業 平廻ため池工事	ヒカワ工業(株)	角 嘉夫
	朝山地区 ふるさと農道整備事業 道路工事	(株) 朝山技建	板倉 祥房

優良建設工事表彰を受賞して

(有)金築組
国道431号 遙堪工区
特定交通安全工事(第2期)
主任技術者 金築 章

この度、国道431号 遙堪工区 特定交通安全工事(第2期)に於いて、優良建設工事表彰を受賞し、大変光栄に思っております。

さて、本工事の現場は、幅員の狭い国道で市道との交差点での施工であり、仮設道路を設けることも出来ないため、大型建設機械が安全上使用できない場所でした。また、市道の付替工事においても、一般車(4t車)の迂回路がなく、幅員4mの道路を特定の4t車は通行させながら施工を進めなくてはならない制限がありました。

そこで、この敷地、時間制限を克服するために綿密な工程、適確な人員配置、構造物の検討(現場打を極力排除)、機械の配置位置、資機材の搬入方法等の検討そして各関係者との協議を重ねました。

今回の工事のような現場では、近隣の住民の方々のご理解、ご協力無くしては到底完成することは出来ません。毎日足を運び、コミュニケーションをとり、真摯に対応することが重要だと考えます。また、発注者側の迅速な回答にも助けられ、適確な判断、指示のできる担当者も必要不可欠だと思えました。

最後に、今回の受賞にあたり、お世話になりました近隣住民の皆様、ご指導を賜った発注者・関係官庁の皆様へ深く感謝するとともに、よき機会を体験できたことをうれしく思います。今後も、初心を忘れることなく、県民のためにより一層努力をしていきたいと思っております。



優良建設工事表彰を受賞して

(有)米江組
布勢川 通常砂防工事
主任技術者 宇野 齊

今回、布勢川砂防工事の最終年度工事で優良建設工事表彰を頂き、優秀の美を飾れた事をスタッフ一同大変喜んでおります。また表彰を頂けたのは、発注者、地元関係者の方の協力なくしては頂けなかった賞ではなかろうかと感謝しております。

さて、今回の工事でもっとも苦勞した点は、橋梁部分での光ケーブル、上水道、下水道との同時施工を余儀なくされた事です。この現場は、作業スペースが狭く、材料手配、ケーブルの切り替え接続を4業者が両岸現道でロスが出ない様に同時作業を進めて行かなくてはなりませんでした。

工程に支障がないように幾度となく打ち合わせを繰り返し工期限内に完成する事ができました。

今まで色々な工事を手がけてきましたが、完成までの難易度としては、非常に高かったように感じています。長年この建設業という仕事にたずさわっていると何が面白くて、何が楽しいのか、ふと考える時があります。自分としてはこの仕事は同じ様な物を造ってもそれに行き着くまでの過程、現場条件、天候、いろいろな事が違います。何一つ一緒な条件が無いのです。その中で自分なりの創意工夫をもって完成に至った時の充実感や達成感は言葉には表せない技術者としての醍醐味ではないでしょうか。

最後にこの賞を、頂いた事を励みにし、私のモットーである創意工夫、努力、情熱を持って地域の方々に感謝される様な仕事を目指して行きたいと思っております。

